

目的 人間の性格形成には多種多様な要因が複雑に関与しているのはいうまでもないが、食物嗜好もその一つであろう。又形成された性格が新たな食物嗜好をつくるという相互の関与が成り立ってであろう。性格による食物嗜好の特徴をさぐってみる。

方法 中学女子186名、短大女子212名を対象にY-G性格検査による性格分類と食品6種の食物嗜好調査を行なった。

結果 1) 中学生と短大生では短大生の嗜好度が高く、嗜好差のある食品で中学生に嗜好度の高かったものはうどん・そば、マカロニ・スパゲッティ、炭酸飲料、紅茶で、短大生に高かったものは19食品あった。2) タイプ別(性格類型別)平均嗜好度はD、B、A、E、C型の順に高かった。これは中学生、短大生とも全く同じであり性格と食物嗜好との関連ははっきり出ていた。3) タイプ別食品嗜好傾向でA型(平凡型)に対して有意差のあるものは中学生B型はミソ、D型はゴハン、サシミ、カボチャ、サツマイモ、ナガイモ、炭酸飲料、E型はブタニク、ナガイモであり、短大生B型はゴハン、サカナ、クダモノ、ウメボシ、ス、C型はサカナ、ウナギ、カイ、ハム、ネギ、アスパラガス、サツマイモ、ナガイモ、キノコ、カイソウ、ケチャップ、ソース、D型はゴハン、パン、マカロニ・スパゲッティ、牛乳、トリ肉、ニンジン、E型はゴハン、チーズ、サカナ、ゴボウであった。C型は以上の食品が有意に低く、D型は以上の食品が有意に高い。